

平成 27 年 12 月 16 日

陸前高田市議会議長 伊 藤 明 彦 様

産業建設常任委員会委員長 大 坂 俊

平成 27 年度 管外行政視察報告書

産業建設常任委員会の管外行政視察の概要は、下記のとおりですので報告します。

記

- 1 期 間 平成 27 年 11 月 11 日（水）から
平成 27 年 11 月 13 日（金）まで

- 2 行政視察地 (1) 兵庫県洲本市（人口 45,920 人 H27.11 末現在）
及び研修項目 高田屋嘉兵衛公園菜の花ホール
・バイオマス産業都市の取組みについて
(2) 徳島県上勝町（人口 1,701 人 H27.11.11 現在）
株式会社いろどり・月ヶ谷温泉「月の宿」等
・新産業創出の取組み等について
(3) 徳島県神山町（人口 5,831 人 H27.11 現在）
NPO 法人グリーンバレー
・働き方の変化を活用した地方創生について

- 3 出席委員等 委員長 大 坂 俊 副委員長 佐々木 一 義
委員 三 井 俊 介 委 員 中 野 貴 徳
委員 伊 勢 純 委 員 伊 藤 明 彦
随 行 熊 谷 卓

- 4 行政視察の概要 別紙報告書のとおり

産業建設常任委員会行政視察報告

産業建設常任委員会では、平成 27 年度の管外行政視察を 11 月 11 日から 13 日までの期間で実施した。

兵庫県洲本市においては、バイオマス産業都市の取組みについて、徳島県上勝町においては、新産業創出の取組み等について、また、徳島県神山町においては、サテライトオフィスプロジェクトについて研修を行った。

○兵庫県洲本市（バイオマス産業都市の取組みについて）

兵庫県洲本市においてはバイオマス産業都市の取組みについて、研修を行った。

最初に農林水産部次長兼農政課長の中島明良氏より、バイオマス産業都市認定までの経緯と構想の概要について説明を受け、その後、菜の花・ひまわりエコプロジェクトによるバイオ燃料製造工場の視察を行った。

あわじ環境未来島構想として、人口問題・経済縮小などの厳しい状況と都市部への良好なアクセス・高い食料自給率などの高ポテンシャルを合わせ持つ独自の特徴を生かし、産民官連携により持続成長モデル構築を目指し平成 22 年に兵庫県と淡路島三市により策定。各地において、地域資源を生かした事業に取り組み、翌平成 23 年には地域活性化総合特区に指定を受けた経緯を伺った。

平成 18 年に洲本市と五色町が合併し、現在の洲本市となっているが平成 13 年より再生可能エネルギーの取組みを行っており、五色町地域新エネルギービジョン策定、「菜の花・ひまわりエコプロジェクト」「クリーンエネルギー風力発電施設建設」「バイオディーゼル燃料製造利用」「太陽光発電施設の整備」などの事業に取り組んできた。

合併を期に「洲本市バイオマスタウン構想策定」。洲本市新地域エネルギービジョン策定し詳細ビジョン・事業化可能性調査などを経て平成 21 年に資源エネルギー庁から「次世代エネルギーパーク」に指定された。

平成 23 年の特区指定を受け、それまでのエネルギー事業化調査を整理し、平成 25 年には、洲本市バイオマス産業都市構想の策定をし、翌平成 26 年に近畿初のバイオマス産業都市に認定をうける。

（バイオマス産業都市とは、経済性が確保された一貫システムを構築し、地域の特色を生かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強いまち・むらづくりを目指

す地域であり、内閣府・総務省・文部科学省・農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省の7府省が共同で選定する。)

以前から取り組んできた事業の拡大。新しく取り組む事業のすすめ方について、市・市民・事業者が一体となって確認、助言、評価と積極的に参加できる体制を構築している旨。バイオマス資源の調達先として、認定を受けた地域内から8割の調達が義務付けられるので、効率的な資源調達・採算性のところで課題があることなどを伺った。

○徳島県上勝町（新産業創出の取組み等について）

徳島県上勝町では、「新産業創出の取組み」等について研修を行った。

まずはじめに、月ヶ谷温泉保養センター等公共施設の管理運営等を行っている、(株)かみかついっきゅう取締役・企画開発チームリーダー 脇田征幸様より説明を受けながら、JA 東とくしま上勝支所にて、POSシステムを使ったバーコード管理、彩農家が出荷している現場での取組みを視察した。

昭和56年2月の大寒波による、それまでの主要産業だったミカンの全滅から、当時、ミカン農家の救済に奔走した農協職員（現(株)いろどり代表取締役）横石 知二氏が5年の歳月をかけ、様々な取組みをし、現在の事業「彩（いろどり）」（葉っぱビジネス）にたどり着いた経緯の説明を伺った。

その「彩」ビジネスの開発とともに、特産品の企画販売やネットワークシステム開発、インターンシップの受入れによる移住者の開拓、高齢者の生き甲斐をあおり、医療費の削減など多岐にわたる地域効果をもたらしていた。全国的に知られた彩ビジネスの為、連日、視察団が多く、同日も数団体合同の視察研修となり、行政視察の受け入れによる新たなビジネスとなっているように感じられた。

○徳島県神山町（働き方の変化を活用した地方創生）

徳島県神山町では、「働き方の変化を活用した地方創生」等について研修を行った。

まずはじめに、NPO 法人グリーンバレーの木内康勝様より「神山プロジェクト」（働き方の変化を活用した地方創生）について概要の説明を伺い、その後、古民家を改造して使用している事業所。廃業した建物を一部改修し、サテライトオフィスとして使用し

ている所を視察案内して頂き、移住者の様子などについて伺った。

国内のみならず、海外の方も巻き込んだ事業となっている背景には、徳島県全域の光ファイバー網の整備や IT ベンチャー企業家やデザイナー・アーティストといった、働く場所を選ばない企業の誘致によるものだと感じた。

今回の視察を通して、それぞれの地域条件を知り、産学官すべての知恵と協同の調和をもって計画・実行して継続的な取組みを行うことが大切だという、基本的なことを改めて気付くことができ、有意義な視察研修であった。